



ひろ の とみ お
廣野 富男
 (市民クラブ)

●喫緊の課題山積 人口減少・東北油化・農業振興を問う

質問 人口減少対策の組織の再編と新年度の方向性は。

市長 結婚支援の柱である「出会い創出事業補助金」は本年度で廃止。民間団体でもパーティ形式から仲人制に切り替えているところもある。結婚というプライベート問題にどこまで行政が関わるか難しい。

空き家バンク事業は廃止の予定であったが、他自治体で注目されている状況から存続、事業のあり方を精査し直す。効果が少ない定住・移住促進対策事業も含め、改組した人口減少対策本部で十分検討したい。庁内検討チームで発案を含め具体的内容を現在検討中であり、年内には外部組織である人口減少対策協議会を立上げ意見等をいただく予定。

質問 東北油化倒産後の新たな課題への対応は。

市長 事業所に残置されたままの死亡牛は、一部役員から撤去の意思を示されたことから、県は具体的な実施方法、工程を確認している状況。一般廃棄物である動物性残渣の処理についても、現在一部役員から協議に応じるとの回答を得ている。解雇に伴う離職者に対しては、ハローワークと連携し解雇された方々の意向に沿って再就職できるように支援を続けていく。死亡

牛の処理に掛かる畜産農家の負担増加分については、県と市で $\frac{2}{3}$ を補助する支援策を講じたい。今後の死亡牛処理体制については、県内で安定的に行える体制を整えるよう県に要望したい。

(*死亡牛は12月中旬に撤去済)

質問 今後の米消費戦略は何か。

市長 農業所得の確保に向け農業生産基盤の充実をはじめ、地域6次化による多角化を推進する。現在、地域6次化ビジョン策定チームによる素案がまとまり、パブリックコメントを経て1月中にはビジョンを策定する予定。米の消費拡大としては、奥州地産地消こだわりの店を認定し差別化に努める。食の黄金文化・奥州料理コンクールをはじめ市内産直施設での食育フェアなどのイベント等、市内企業や農業団体と連携し消費拡大に努めたい。



元気な農村づくり(水仙の球根植え)



いい ざか かず や
飯坂 一也
 (公明党)

●自主防災組織の活性化を ●6次産業化の推進を

質問 自主防災組織の防災訓練の実施率はどの位か。毎年訓練が実施されるように、防災訓練の実施率を指標の一つとすべきである。

市長 平成24年度に実施したアンケート結果では、42・5%の組織が消火訓練等の防災訓練を実施している。自主防災組織がしっかりと機能していくように、防災訓練の実施率を指標としていきたい。

質問 地区防災マップと地区防災計画の作成の推進について伺う。

市長 セミナーや職員等の派遣などを通して推進したい。

質問 6次産業化の推進のためには、奥州市の名前も積極的に売り出すべきと考えるが。

市長 6次産業化PR用動画を作成中で、27年1月に配信予定

である。2月には東京で開催される新農業人フェアへ参加する。県内外へ、奥州市の売り込みを展開していく。

質問 市場ニーズをどのように把握するか。民間の手法や戦略を積極的に活用すべきと考えるが。

市長 地域ビジネススクールの設置などによって、民間の発想力を活かした本格的な農業農村マーケティングプロモーション事業へ発展させていきたい。



儲かる農業の実現を「奥州ずんだむす」